広報あいかわ

発行所
秋田県北秋田郡
合川町役場
合川町公民館
（役場町民課 T 4
公民館 T 62）

社会教育十周年記念特集号

飛躍へのいしずえ 社会教育十周年記念式 功労者九氏を表彰

町教育委員会では、菊かおる十一月三日、文化の佳き日に西小学校において、社会教育法制定十周年記念式典を盛大に挙行することになつた。この式典は町内の社会教育団体の代表をはじめ、関係者約二五〇名が参集し、十年にわたる社会教育活動の反省をなし、これを基礎としてさらに一歩進んで飛躍への指向を期そうとするねらいのもとに開かれるものであり、当町の社会教育活動に献身的に努力された加藤定之助氏（鎌沢）外八名の社会教育功労者の表彰、記念社教大会などが開かれる。公民館では、この式典に呼応して全町民の文化水準をたかめ、明るい豊かな住みよい町づくりを期し町内各小中学校を中心とし各職場、文化団体等が提携し、日常活動の成果を発表し合う広場として文化祭を企画し、文化財をはじめ各種の展示舞踊、合唱、合奏、演劇などの多彩なプログラムを展開して、一層ふん囲気を盛り上げることになつている。

十周年を迎えて

公民館長 金田英知

過ぎ去つた十年は夢のようであり、何を成したか過去を追うて見ましたが有形のものは何一つ残つてはいない。無形の何ものかを見い出したいものだが、之も自分なりの見方かも知れないが余りない。

発足当時十七、八才から二十四、五才までの青年が青年学級として集まつたが何を課題にして一夜を過ごしてあつただろうか。

今は三十才前後の壮年となり、家業の中心となり張り切つている事であろうが当時の集会が心のどこかに印象づけられておれば幸いです。その青年学級が、学習内容、運営の変化はあつても中断することがなく続いていることは嬉しいことです。

その間、秋田県の優良学級とか文部省の指定学級とかの待遇を受けたが、学級生にプラスになればと思うだけで、公民館の名誉、或は職員の誇りにするので引受けたのではない。

視察に来られるのが多くなれば、役職員の研究材料になつたり、単に見せるための形を飾る行事になつたりする事を慮れ極力さけて来た積りです。

このような例は他の社会教育活動でも言えることで補助金が欲しいばかりで形式的な活動になることは真平御免です。

日常生活から不合理を見い出したり、尚一層合理的な方法を見い出そうとする必要性から共通的な意慾の盛り上がりとして家族同志でも結構、友人同志でも結構、隣人同志でも結構、何がしかの同志が研修する、或は広場を求める意識が生れ出る環境の育成と、これに対する場所の提供、グループの在り方、講師の世話とかをするのが公民館活動だと考えております。

公民館の方で何か計画して実行して欲しいと待つている気持ちの方々に合致した活動には、賛辞を受けたり感謝されたりするが、反対に自分の考え方に一致しない活動には無用論や批判論が飛び出したりする。

町民の皆様が望むものへ合致する企画を、財政面でも人的面でも充実したい気持ばかり一杯で毎年のように年度始めには反省と決意を繰り返して居る次第です。

合川町公民館活動の方向を基礎づけて下さつた先輩職員や現在活躍して下さる職員の方々には、夜の会合や休日の会合が多くて本当に苦労を掛けておりますがむくゆるものは何一つない実情です。

殊に本年度の公民館予算編成に先年まで僅少でしたが年手当として二千円から三千円位の報酬を支給していたのを辞退して一般活動費に廻してやろうとまでして下さつた際の会議のふん囲気は、私の生涯にとつて忘れることの出来ない思い出となることでしよう。

しかし自己満足だけしている時ではない。私に課せられた今後の重大な目標は合川町にふさわしい公民館施設を一日も早く建設することだと思つております。

社会教育団体が気軽に会合出来る場所、農村の生産にふさわしい研修の資料資材の設備、諸参考資料、農村図書、町民の憩の広場を設けることが、切実な課題として日夜痛感させられるのです。

何卒今後皆様の公民館として物心両面の絶大なる御支援と御協力を賜らんことを御願い申し上げます。

ひととともにわれ

―お祝いの言葉―

町長 畠山義郎

この十年の間に、私達は十年前と今日の人間の考え方の変化に驚異のほかはないのであります。

そしてそれは学識のある一部の人ではなく地域社会そのものの胸の鼓動が聞えるような、またすくらむを組んであるいてくるあし音が聞えるような気がするのであります。

社会教育、公民館まだまだその意味が判らない人が多く私もその真の方向は判りませんが、ただ社会教育や公民館活動がその人間の究極の理想を完成させようとするのではなく多彩な人間の生き方を確認し合いながらお互に成長しようとするその機会と場所の提供とも申すべき、助言的な仕事の単純で最も困難なこととの連続がその当事者の任務でありそれは地域社会の人々がどうしてその芽を育てて行くかにかかつているようであります。

社会教育は当事者からみて他動的であり、地域社会からみて主動的になつたとき理想に近い姿が生れると思います。

そんなことを考えると過去十年間は当事者の主動的な役割から出発しながらも次第々々に当事者が他動的な方向をとれるような実情になつてきたことは進歩であると信じております。

合川町発足以来、町全体の新しい町民性の確立こそ新生の町を将来どう方向づけるかの基点になるものと考え重点的な活動を期待しておりましたところ種々曲折を経、まだまだ不完全な姿であつても、他の市町村の現段階よりは相当の地域社会の人間的な自覚を得つつあるものと信じております。今回法の施行十周年を期し顧りみて、その短を補い、明日からの進展を期することを心から祈念し現在まで蔭の力となつて活躍された関係職員に心から敬意をはらうものであります。

最後にその機会を得、その場所を得て人間が社会人として豊かな生活をしようとする芽を育てて行くことを町民の皆様に期待してやみません。

公民館に期待する

教育長 斎藤憲一郎

社会教育が時代の進展と共に益々その重要性を加えつつあるこの時文化の日を期して社会教育法制定十周年記念行事を実施することの意義を皆さんと共に味わいたいと存じます。周期を記念することは過去を振り返り将来の躍進のための契機としてその意義をもつものであると思うのでありまして、この意味において社会教育に対する将来への希望の一端を申し述べてみたいと思います。

現今の社会各方面の状況を見るに十年余りの間に形の上ではすばらしい復興発展をとげているのでありますがこうした物質面のはなやかさに比べて何にかしら根本的なものが揺らいでいるのではないかと言う感じを抱かずにはいられません

これは戦後の急激な変化にろうばいして、これに適応してゆくだけの心のゆとりが人々の中になかつたためでもありましようが、物心両面の均衡が余りにかけ離れていることを痛感するのであります。

然してこうした面の改善は一朝一夕にその効果を見ることは不可能なことでありますが社会教育の大半を荷う公民館の活発な活動によつて相当の成果を見ることが出来得るものと存じます。而かもわが町の公民館は合併以来日尚浅いにもかかわらず一応軌道に乗つて相当な成果をおさめつつあります。即ち季節的裁縫学級、青年、婦人学級は勿論のこと若妻学級、技術学級ことぶき（老人）学級など逐次開設して町内各層万般にわたつて活発な活動を為しつつあることは賞讃に値するものでありますが十周年を契機として公民館活動に携わる各位は勿論のこと町民の皆さんもこうした点に一段の御留意を願えれば幸この上ない次第に存じます。

公・民・館・へ・の・注・文

町民の声を集録

公民館では、社会教育十周年記念特集号を発行するに当り、次のような問を発して町民の声を集録した。

問 合併後公民館活動も四年半を経過しました。今までの活動を振り返つて感じたこと、又今後への希望意見など何んでも結構ですのでお知らせ下さい。

藤島誠君（木戸石）農業 二十二才

一般に公民館がどう言う仕組みで運営されているか知らない人が多いと思う。若い人達は学習の機会も多いが、その上の人達の社会教育機関も必要と思う。個人ではやれないものを広く呼びかけ指導して欲しい例えば結婚、葬式の簡素化等。

高橋典士氏（美栄）農業 四十七才

部落巡回映画会を設け、教育映画ニュースなどを主材にして、年二～三回位催していただけないでしようか辺地部落として特に望む。

佐藤照子さん（川井）会社員 二十二才

活動の土台を作つて下さる公民館の方々に感謝致しますが、結果に余り期待する向きがあり重荷を感ずる事がある。

希望 他町村青年との交流を実施して欲しい。茶、花の学習の場を作つて欲しい。

金田あきさん（西根田）農業 四十一才

ことぶき学級は大変すばらしい思いつきと思います。ことぶき学級にも婦人会にも出ない中間の姑さんの集りも考えては如何。農閑期に慰労の意味で日帰りの温泉行きも良いと思う。時々姑の会も設けたら嫁達は遠慮なく各会合に参加出来るのではないでしようか。

穴倉正一君（道城）臨床検査員 二十三才

町民各層を広範囲にわたつて「何を考え何を望んでいるのか」を時間をかけて調査し、それによつて公民館の活動方針を樹て、誰もが自由に気軽に参加出来る公民館活動にすべきです。各地区分館制の再検討は是非必要です。

工藤アイさん（上杉）教員 四十三才

若妻学級や老人学級を開いているが、一家の中心となる婦人の学級がないようですから一ト月一回又は仕事の都合を見て、家計簿、生活設計などについて話し合い、出来るだけ生活の向上を図りたい。教養を高めるためにも良いと思う。

高橋ミヱさん（八幡岱）助産婦 三十五才

各地区に農村文化の教育を担当する職員をふやして置いてもらいたい。精神的教養を高めるために先進地の視察、各種研修会グループ活動、家族計画の指導などを完全にやれる楽しい公民館になることを望みます。

原ノブさん（川井）無職 二十五才

明かるい楽しい生活を築くため一層頑張つて下さい。年一回は全地区の若妻合同学級を開いて頂きたい。

"それはいばらの道だつた"

公民館のあゆみをふり返つて

解説

設置の背景

昭和三十四年四月、合川町として発足以来早くも四年半の年月を経た。公民館活動は旧村当時よりそれぞれの地域において、地域に即応した運動が行われていた訳であるが、概ね公民館設置条例を制定したに過ぎず、従つて社会教育に関する世論の程度も低く、僅かに旧下小阿仁地区が青少年教育、婦人教育に活動している状態であつた。こういう背景のもとに四ヵ村が合併し、必然的に合川町公民館の誕生となつたのである。

機構の変せん

合併と同時に統一ある公民館活動の必要性にせまられ、昭和三十年五月三十日合川町条例第二十三号でもつて合川町公民館設置条例が制定された。合川町公民館と旧町村の区域毎に、東西、南、北地区館を置き、さらに必要に応じて部落毎に分館を設ける仕組をとつたのである。これは合併直後の謂わば暫定措置としてむしろ当然であつた。しかしながら新町の地域をいつまでも旧村単位に分割したまま、その自主的活動にゆだねることは、利点なしとはしないが立町の精神からしても、又実際運営の面からも適正を欠き、全面的な機構改革の必要に迫られ、地区館を廃して本館の傘下に四分館の設置を見ることになつた。これが昭和三十二年四月である。

さらに今年に入つてからは分館職員を全員本館職員とし、それぞれ各分館を担当する仕組に組織替えを行ない現在に至つている。

予算の推移

当町の社会教育予算は即公民館予算である。その推移を見ると

年次	予算額（千円）	住民一人当り（円）
三十年	七〇四	五六
三一年	七八五	六三
三二年	八五八	六九
三三年	一、〇九〇	八七
三四年	一、三一六	一〇五

となり、年々上昇の一途をたどつている。しかしながらその内容を検討して見ると、人件費、施設費、諸負担金などを除いたいわゆる純活動費は約半額しかない現状は、いささか淋しさを禁じ得ないものがある。

活動の概況

旧下小阿仁地区の活動に刺激されながら各地区の公民館活動は年次を経るごとに軌道に乗り始めていつた裁縫学級、青年学級、婦人学級が開設されるなど全地域概ね平等な各種の集会や諸行事がもたれるようになつた。三十一年後半に東地区、西地区にそれぞれ若妻学級が誕生、三十二年に東地区若妻学級は、その活動が認められ文部省委嘱の婦人学級に指定された。

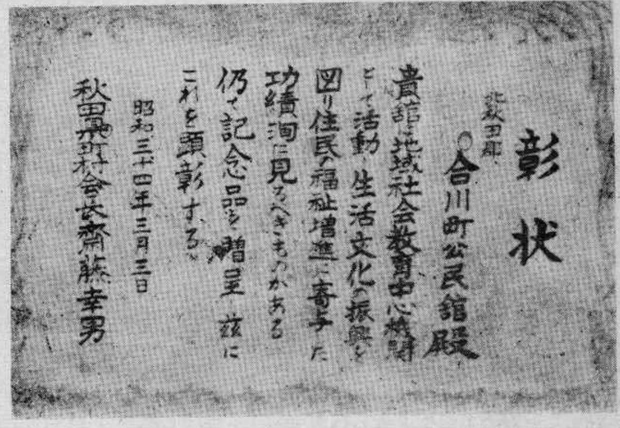
同年南地区裁縫学級は、その実績がかわれて定時制高校季節分校になつたが、翌年財政措置の関係から頓座の止むなきに至つたことは惜しまれる。

この時期から各地区に於ける新生活運動が活発となつたが、特に南地区は昭和三十三年度秋田県新生活推進地区に指定され、青年婦人を中心とした町づくりのモデルケースとなつた。

東地区には技術を中心とした青年学級が生れ、特異な存在として三十三年、三十四年継続文部省委嘱学級となり、農村青年の養成に一役かつている。

その他町当局と協同で内地留学生制度、各団体の育成や連けいの強化、一夜講習会などの内容充実、各講習会や映画幻灯による視聴覚教育、ことぶき（老人）学級、移動公民館など漸次その使命達成に向つて歩みを続けている。

このような地域総合社会教育を振興した労をたたえると言うので、昭和三十四年三月三日県町村会より優良公民館として顕彰を受けた。



彰状

北秋田郡
合川町公民館殿

貴館は地域社会教育中心機関として活動し生活文化の振興を図り住民の福祉増進に寄与した功績洵に見るべきものがある

仍て記念品を贈呈し茲にこれを顕彰する

昭和三十四年三月三日

秋田県町村会長　斎藤幸男

反省と方向

具体的に今までの活動を振り返つて見ると「それはいばらの道だつた」の一語に尽きる程、苦難の連続であつた。施設、専任職員の不足、独立公民館のない悩み、予算の活用方法、事業のとらい方など問題点や反省すべきことがらは山積みされている。その問題を少しずつでも解決し、町民が何を考え、何を望んでいるのか、合川町の立地条件生活環境の実態はどうなのかなどと、ここいらあたりで把握をして見る必要があろう。そして立町の基本にマッチした生産教育を振興させ、人間関係と生活の合理化を確立し、農村生活にめばえる文化活動を推進して行きたい。

私達が社会教育法の十周年を機会としてこの催をもつたのは、今までの活動をふり返り、その実績を反省評価しながら新しい公民館活動の「構え」を造り飛躍への転機たらしめたいと念願しているからである。

今後なお一層の御援助をお願いしながら、活動のあゆみの解説を終ります。（W）

公民館みんなで育てて明るいくらし

輝く感謝状

社会教育功労者を表彰

町公民館では社会教育十周年記念に当り当町社会教育振興のため功労のあつた次の九氏に対し感謝状を贈呈し日頃の労に報いることになつた。
以下授賞者のプロフイルを紹介しよう。

加藤定之助氏

（鎌沢）明治二十九年三月七日生れ、当時部落委員長や、公民館幹事を兼ねながら公民館運営に参画し　特に合理的な施設の活用を図るため、部落公民館を住民に提供して共通な広場を作つた。現在家業を営みながら自適の生活を送つている

御所野長三郎氏

（鎌沢）明治四十四年七月十日生れ、現在南中学校に奉職している。合併前から青年教育の重要性に着目し夜学校を創設、現在の青年学級の先べんを作り、その基盤を確立し、青年教育行政に果した役割はきわめて大きい。

佐林幸吉氏

（森吉町）明治四十一年十二月二十五日生れ、南中学校長として奉職中、学校教育と社教の関連性を説き、その実績を通して当町の総合社会教育活動の基礎を作つた。その後社教主事、現在阿仁合小学校長となつたが、なお度々当町を訪れ指導を下さつている。

武石美作氏

（李岱）昭和四年一月三十日生れ、南中学校在職中青年学級主事として活躍、学級の理論的運営と学習計画の具体化に努力し、本町青年教育の指針を樹立した。今南地区が地道な活動を続けているのは氏の努力の結晶と言えよう。現在西中学校教諭。

津谷セツ氏

（秋田市）大正十三年三月三十日生れ、元合川町保健婦として務めるかたわら、若妻、婦人学級講師を兼任特に若妻学級の創設と運営に当つては、けん身的な努力をし、母親教育のエキスパートとして活躍した。現在秋田市役所保健婦である

成田迪氏

（李岱）明治四十一年七月一日生れ、西小学校長である。公民館分館長と本館主事を兼任しながら地域における成人教育活動を指導した。特にPTA活動と公民館活動との関連を重視し、円滑にその位置づけを果した役割は大きかつた。

畠山俊夫氏

（木戸石）大正九年二月十九日生れ、合併当初より分館長として、公民館を中心に地域の社会教育活動を推進し、特に部落委員長であつたため部落施設を拡充し地域民に解放、学習の広場を提供した功績は大きい。現在下大野郵便局長である

福岡武雄氏

（三里）明治三十九年九月七日生れ合併当初から公民館分館書記、本館主事と常に当町公民館活動の中核となり運営全般にタッチ。特に青少年教育や新生活運動或は定時制季節分校の設置などに活躍した業蹟は高く評価される。現在阿仁合小事務官。

森岡キクヱ氏

（道城）明治三十二年九月十六日生れ、昭和二十一年から昭和三十二年までの十二年間裁縫学級講師として活躍、裁縫学級の基盤を作ると共に、女子青年と共に歩み、喜怒哀楽をともにしながら裁縫技術及び情操教育に尽した功績は高い。現在家庭主婦。

×　×

安部倉太郎氏（増沢）農業　四十四才

老人学級は実に良い着眼と思います。孫達と口論ばかりしていた老人が社会的に若返り元気になつたようです。今後も継続するようにバス運行の予算を獲得して合川全部の学級を実現させたい。老人の同級会ともなりましよう。

桜田鞠子さん（東根田）農業　四十三才

わが町の役場と公民館は他町村の人々に対して私の誇りとしています。青年、婦人学級に対する献身的な指導には頭が下ります。

ことぶき学級の開設は誠に喜ばしいことだと思います。これからも公民館が皆に愛され親しまれるよう頑張つて下さい。

桜田日出雄君（東根田）農業　二十一才

一、図書の貸出しを全面的にやつて欲しい。
二、中央公民館と併せて図書館の建設を望む。
三、定期教養講座の開設。
四、サークル活動の部門を設け、それを推進して欲しい。
五、冠婚葬祭の簡素化運動の徹底（そのためにモデル部落などを作つてはどうか）

三浦タミさん（三木田）農業　四十四才

感想
一、嫁姑の仲が良くなつた
二、衛生思想が高められた
希望
一、政治学習を指導して頂きたい。
二、暮しの作文を綴る会が欲しい。（実生活を良くみる、聞く、考えるために）

藤島キヨさん（木戸石）商業　四十二才

一、年令層を通した学級によつて、家庭に帰つた時お互いを心から理解し合うようになつたことは良いことと思う。
二、青少年の人達に明かるい希望と自分を反省し行動する強い気構いを持つてもらうため、一段と突つこんだやり方があつて良いと思います。

松岡優子さん（羽根山）農業　三十一才

ことぶき学級の評判は良いので来年も度々やつて欲しいと思います。私達の若妻学級も農閑期はもう少し活躍しますのでよろしく。

高橋直一郎氏（八幡岱）農業　三十四才

各地区が統一化されて来たのは、公民館活動の蔭の力が大なるものと感謝します今後は机上論ではなく一つ一つ実行性をもつたやり方で町民の末端まで滲透する必要があると思います。

高橋ヒノさん（駅前）官吏　四十四才

結婚の儀式について各地区毎に公民館が斡旋して諸事万端世話して簡単に儀式が出来るようにして頂きたい

伊東紀喜君（杉山田）農業　二十三才

合併により各会合を充実させ、しかも大きな規模で行なうことは利点に数えて良いと思います。反面辺地住民に対する指導がおろそかになるので今後特に考慮して下さい。又指導性が八方美人的だがそうでなく地域を選定し、一つの目標を決め、これを中心に重点的指導をすべきだと思います。

木村玲子さん（李岱）無職　二十一才

より良く、明かるい町を作るため公民館と手を握り、あらゆる方面で活用して行きたい。生活改善なども取り上げて下さい。そして明かるい生活にするため一人一人が心がけようではありませんか。

ことしの社教活動グラフ

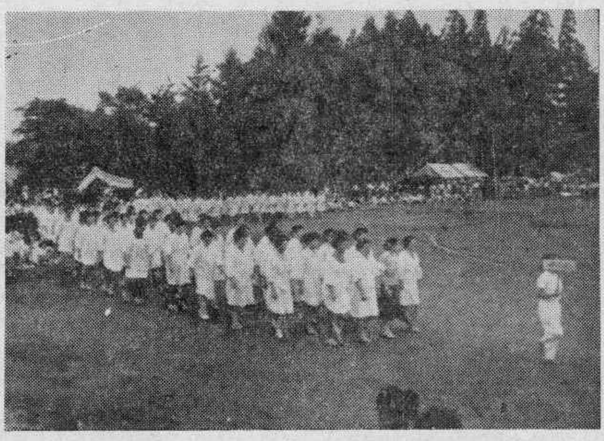
◎立町の基本にマッチした生産教育を振興させよう。
◎人間関係と生活の合理化を確立しよう。
◎農村生活にめばえる文化活動をおし進めよう。

この三つが今年の公民館活動の目標である。その目標に向かつて、成人教育、青少年教育社会体育、視聴覚教育新生活運動、公民館運営と具体的に事業計画を組んで活動がなされている。

ともすれば社会教育の現実が、住民のかくれた悩みや願いから浮き上がるものだが、今までの活動経過をふり返つて、住民みんなの欲求にマッチした公民館活動とするため、グラフでその足あとをみてみよう。

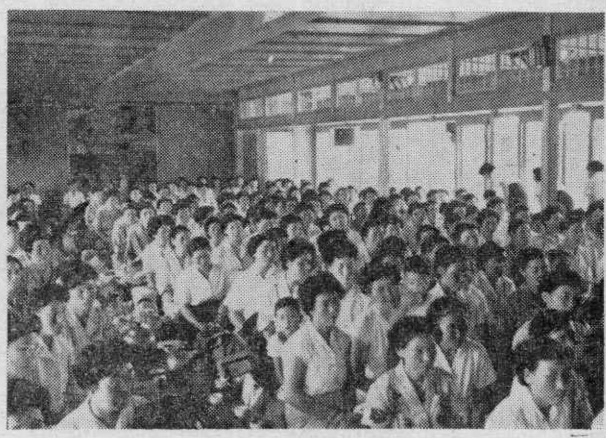
町民体育祭

第五回を数えた町民体育祭は年々内容を充実し益々盛況。特に今年は趣向をこらした堂々の入場行進と、約三百名の婦人会の参加により、グランド一杯に繰り広げられた民謡踊りは圧巻であつた。写真はエプロン姿で入場する婦人たち



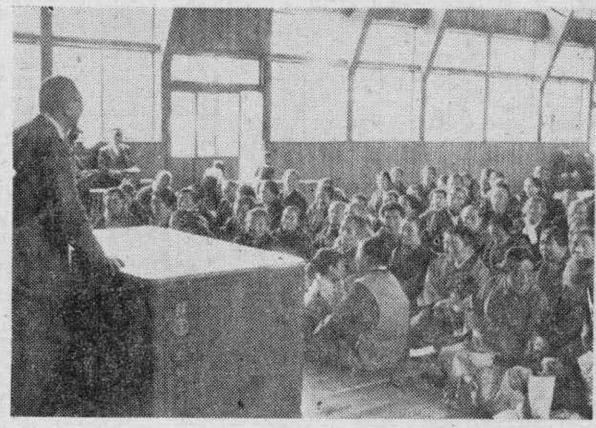
婦人移動学級

各地区ではそれぞれ婦人学級を開講して、暮しの問題、子供の問題、社会問題などを課題として勉強しているが、年一回は日頃の労苦を忘れ、レクリエーションを兼ねながら移動学級を行なつている。写真は移動学級に参加した喜びの顔、顔



ことぶき（老人）学級

もう一ふんばりし、そして老後を楽しく過ごそうとして開設したこの学級は予想外に好評。七月に四カ所、十月に四カ所と二回開催し、何づれの会場も百五十名を越す盛況ぶり。写真は熱心にお話しを聞く年老いた一年生たち



青年学級

各地区毎十一学級開設されているが最近は講義式学習から実習、話し合い、調査活動を主体にした共同学習の形態がとられて来た。レクリエーション旅行も楽しい活動の一つである。写真は調査の取りまとめに忙しい川井女子技術青級

社教講師団

青年、若妻、婦人学級などが盛んになつて来ると組織化された講師団が必要になる。そこで町内外各層からの応援で講師団を編成して各学級、各団体の便宜を図ることになつた。頭数だけ揃いただけで意味がないと酷評されるむきもあるので来年からは再検討する必要がありそう。写真は、さつそうと機動力を活用して学級に出向く講師陣

青年会活動

仲間同志のつながりを深め、青年の暮しを高めようと言うスローガンの元に会活動は最近とみに活発になつて来た。今年は政治活動をやつたり大きな大会があつたりで試錬の年でもあつた。写真は当町で開催した郡大会で準優勝した選手団

盆踊り大会

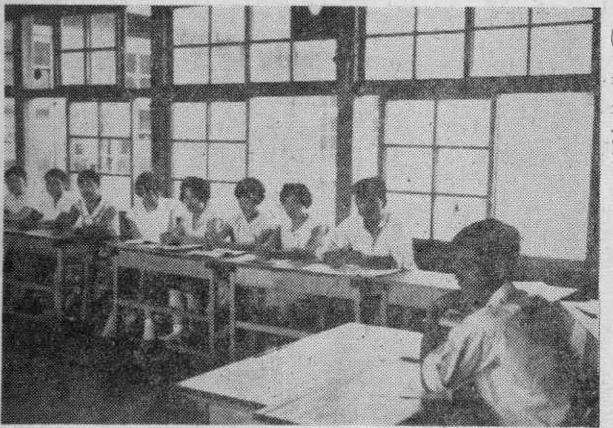
お盆の統一も実施され、各地区では老幼男女全てを対象として盆踊り大会を各団体と共催で盛大に催し、夏の一夜を楽しく過ごした。来年からは合川音頭を全町内で踊ることが出来そうである。写真は可愛いお嬢さんたちの盆踊り風景

若妻学級

若いお母さんたちの教養向上と健全な子供づくり、楽しい毎日の生活づくりを図ることは大事なことであるその広場としてこの若妻学級が誕生した。東地区に一学級五支部、北地区に四学級、西地区に一学級を開設している。学級生の年令制限は各学級によつて違うが三十五才位までとなつている。写真は子供をおんぶしながら学習する学級生たち

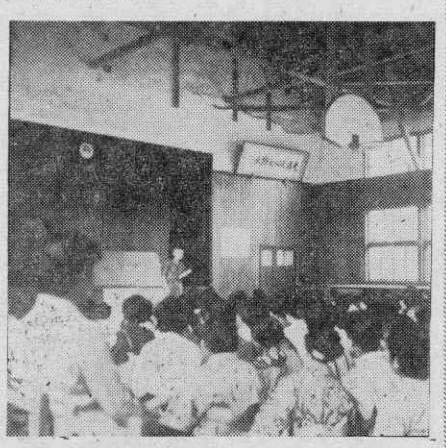
青年一夜講習会

合併以来町内青年の交歓の場として一夜講習会が開かれてから第五回目を迎えた。今年は「農村における青年生活はこれでよいか」と言う主題のもとに八月八、九日南小中学校で開かれた。写真は分科会で討議を続ける青年たち



婦人会活動

社会福祉、新生活運動などに婦人会の果たして来た役割はきわめて大きい。四地区にそれぞれ会を組織し会員数千二百人と称している。〃生活を明かるく〃と言う目標のもとに数々の事業計画を組んでいるが、各種講習会、婦人学級などの教養向上活動は特にすばらしい。ロールプレイングを郡、県の集会で演じたり、なかなかあか抜けした所もある。写真は今後の方向を決める婦人大会



グループ活動

最近の社教活動は、大集団から小集団活動へと移行していると言われるグループ、サークルはその流れの一端であろう。当町の場合純然たるグループは少いが、二、三活動を続けている。写真はその中の演劇研究うづきクラブ

若いお母さんの生活記録

川井若妻学級から

わからない酒飲みの心理

昨日主人は公用で出張した。子供は今朝から父さんキシャコ、キシャコ、エグとしきりに父を呼んで待つている。

女心の弱さから、つい子供に負け終列車で帰る主人を迎いに駅へと急ぐ。まもなくホームに汽車が入り降車した夫は、ある方と話をしていたが、近くの飲食店に入つていつた。さあ折角迎いに行つた私達はどうしたらよいでしようか。待つているのも相手の人に悪いし、だからと言つて先に帰るのも何んだか張り合いがぬけたようだし、さんざんためらつたが、結局は先に帰つて来た。子供は背中でねむつてしまつたし、私一人で御飯を食べたが、折角の献立も精神的においしくない。主人は十一時頃帰つて来たが、そのかつこうたるや、酔つた酔つたの千鳥足、居間に入るもドスンところび意識不明のありさま。いくら好きだとてどうしてこんなに飲むのでしようか。全く解らないのは酒飲みの心理です。

月なくて
北斗七星さみしげに
光を見つつ
吾子と歩むも

N・H（二十七歳）

クリスマス

今日はクリスマスの前夜で、ネオンの灯る町々はさぞかし賑やかな事と思う。私もせめて子供の夢をこわさないで美しい夢を結び上げて楽しい思い出を残してやりたく、子供のねむつた可愛い顔を見てサンタクロースと早変り、朝喜ぶ顔を思いながらやつぱり私も世間の母と変らない心持ちだと自分で自分を笑いながら子供達も大きくなつたらきつと私のようなまねを我が子に夢を結ばせてやる事と思う。

すやすやと眠つている我が子は何を夢みてるのか、楽しそうにほほえんで居ます。大きな子が七歳、小さい子が四歳で元気に新しい年を迎えようとしています　子供達を中心に健康な生活を営み、人生の明け暮れを楽しく過ごすのを私は大きな幸福と思います。

A・Y（二十八歳）

子供のしかり方とほめ方の映画から

この映画は子供の親となつたばかりの私達にとつては本当に為になつたと思います。それもその人によりますでしようけれども、まず現在の私達は、子供が悪い事をすると頭からしかる事だけ。良いほめ方、しかり方が出来ず、子供が反抗心を持つようなしかり方が多いのではないでしようか

まず映画のように、二人生活の場合は親として自分の子供を良くしつけようと思えば　自分たち気ままに育てるでしようけれども、姑さん方と居る人達は、まず農家でありますと私達よりも姑さんが多く手をかけますので、私達が思うようにはいかない。話せば判るでしようが、まず一家みんなが手本になる映画を見て、これからはなるべく良いしつけで育てて行きたいものだと思いました。

T・Y（二十五歳）

長男の誕生日

今日は長男治人の三回目の誕生日だ。貧しい生活では華やかな祝いも出来ないが心ばかりの祝いをしてやりたく午後から稲刈を休んで少し仕度した。新しい晴着も買つて上げれなかつたが、神参りに行つて来た。夕食の食卓は赤飯にキンキンの焼き魚に豆腐のあんかけと言つた、只それだけのものだが、貧しいながらもささやかな我が家の祝日に嬉しくて嬉しくてならなかつた。

何も知らない無邪気な子供は、ハルヒトのタンジョウビだ。トウサンから生れた、と言つて喜んでいるのを見て涙が出る程嬉しかつた。たとえ金はなくても我が家は幸福である。金では買えない幸を味つている。吾子よ明るく素直に成長して呉れと祈りつつ。

わんぱくに
我は未来の夢を見つつ
吾子よ強く育ちあれんと

N・H（二十七歳）

町づくりグループ ⑦

—友愛と親ぼくと勉強を—

芹沢若竹グループ

同じ問題や悩みをもつ若い婦人たちが親睦の情を深め、意思の疏通を図り、教養向上のため勉強しようとして芹沢、東根田、西根田の有志が相集つたのが昭和三十一年三月であつた。

その後両根田の若妻達はそれぞれの部落で活動するため離れ残つたのがこの芹沢若竹グループである。若竹のようにすくすくとのびようとしてこの名称が生れたらしい。目的が友愛、親睦、勉強となつているので、事業計画は大体勉強会とレクリエーションである。

二十五、六名の会員であるが、会長とかの責任者をおかないで、当番制によつて誰でも責任者にならなければならない仕組みをとつている。毎月の集会ごとの記録を当番が書かなければならないが、その記録を見るとこのグループの成長がわかるような気がする。

部落の人達も始めは今の嫁達は……と苦情を言つたそうであるが、最近はむしろ喜んでこのグループに参加させてくれるとの事である。

料理の講習会に姑と嫁夫婦共々、親と子など二人連が多くなつたと会員の人たちは喜んでいた。月五〇円の会費を積立貯金にしているので、今からその使い方が話題の中心になつて話し合いが楽しくはずんでいるそうである。

【写真は子供をつれて集会に来るグループ員】

【写真は婦人たちの家庭バレーボール試合】

家庭バレーボールを

公民館と体協が普及へ

町公民館と体育協会ではかねてから町民が誰でもやれるような運動競技について研究中であつたが、この程、家庭バレーボールが最適であると言う結論に達し十一月から本格的に普及にのりだすことになつた。

この家庭バレーボールは私達の日常生活、日常作業の姿勢がすべて前かがみであるため、体を後にそらす運動を十分取り入れなければならない点から最適であり、ボールはビニール製であるため、きわめて軽く、つき指などの心配もなく、老幼男女、あるいは家族単位にもやれると言う利点をもつている。

今後は青年学級、婦人学級、若妻学級を中心として普及して行くが、要請があれば何時どこでも普及員を派遣し、みなさんの要望に応えることになつた。

阿仁部駅伝

三日に開催

町体育協会では合川町農産品評会と共催で十一月三日第二回阿仁部社会人駅伝競走を実施することになつた。今年はコースを多少変更して阿仁町—森吉町—上小阿仁村—合川町（西小学校ゴール）まで八区約四十五粁を走破する。

参加チームは、先年優勝の阿仁合連青を始め八チームが予想され、世紀の大激戦となる模様である。

なお阿仁町から午前十時にスタート、正午かつきりにゴールされるものと思われる。

暮しをよくする講習会

二十五日、南中学校で

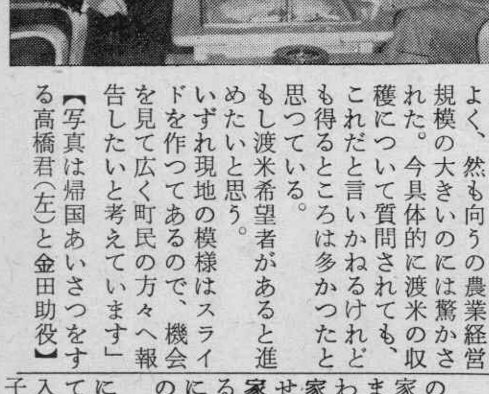
秋田県新生活協議会では家計を合理化し、くらしをよくすることになつたが、当町の南地区は、県の指定地区になつているので、来る十一月廿五日午前十時より南中学校でその講習会を実施することになつた。

内容は家計簿を中心とした講話や主婦の力で出来る現金収入の工夫などについての話し合い、教育映画の観覧などで一日を終る予定である。講師は、県専門技術員渡部丈先生、秋田生活改良普及員長崎京子先生などが予定されている。

なお当日は、県の家計合理化専門委員が来町し、参加した人達と意見の交換をする予定である。

渡米中の高橋君帰国

実習も実り元気で



農林省派遣の農業青年として去る昭和三十一年九月渡米した高橋正蔵君は現地アメリカの農業を三ヵ年にわたり習得、去る十月二十日横浜港に入港、入国手続などを済せ二十五日懐しいわが家へ帰つた。

高橋君は翌二十六日役場へ来庁、町長不在のため金田助役に帰国のあいさつを行なつたが現地の模様などについて次のように語つている。

高橋正蔵君の話

「私は第一回の派遣でしたので条件などにいろいろと手違いがあつた。私の入つたところは風土がよく、然も向うの農業経営規模の大きいのには驚かされた。今具体的に渡米の収穫について質問されても、これだと言いかねるけれども得るところは多かつたと思つている。もし渡米希望者があると進めたいと思う。いずれ現地の模様はスライドを作つているので、機会を見て広く町民の方々へ報告したいと考えています」

【写真は帰国あいさつをする高橋君（左）と金田助役】

東中生徒

友情の稲かり

秋の刈り取りも九分通り終り、勢の良い脱穀の音が軒々に聞かれるようになつたある朝の教室で、二年生の一女生徒が「T子さんの家の稲刈りの手伝いに行きましよう」と突然提案した。わけをきくと、T子さんの家の田んぼだけが稲刈りをせずに残つているという。家の事情をよくわかつている同級生たちは早速手伝いに行くことに同意し、翌日の土曜日午後からと決めた。

家の事情とは、父はすでになく、母が万事に頑張つていたが、その母も倒れて入院生活をしてしまい、T子さんと祖母と二人で農事家事の切り盛りをしていたが、そのT子さんも春以来健康をそこねて入院する破目になつたのである。

その夜同級生の一人がそのことを家へ帰つて話したらそのお父さんも「それではホンニヨつきは俺がやつてやろう」と言うことになり、それも決つた。

翌日土曜日、午後授業が終つてから担任の先生に引率された同級生たちはそこだけ残つている一見してわかるT子さんの田んぼにやつて来て、うすら寒い秋空の下で雨にぐつしよりぬれた田んぼの中に入つて稲刈りの奉仕作業を行なつた。

社会教育委員を委嘱

社会教育法の改正によつて新しく社会教育委員の制度が出来たが、町教育委員会でこのたび次の十氏を社会教育委員に委嘱した。

佐藤　重一氏（川井）
亀谷　禅法氏（上杉）
松岡　忠氏（羽根山）
庄司キクヱ氏（李岱）
杉渕　綏造氏（鎌沢）
三浦フサヱ氏（三木田）
畠山　俊夫氏（木戸石）
疋田　参良氏（李岱）
成田　迪氏（西小）
高橋　金蔵氏（東中）

北海道の青年達

11月中旬に来町

北海道旭川付近の勤労青年約三十名は、諸地域の生活、教育、文化、産業などの実施視察と現地青年との交歓を目的として、東京を始め内地諸地方を巡歴するが、その帰途、合川町の青年たちと話し合いをしたいと言う便りがこの程町公民館に舞い込んだ。

一行は、十一月十九日午後六時二十分合川駅着の列車で到着することになつている。

公民館では、早速歓待する旨返信し、近く町連合青年会と打合せし、具体的な歓迎方法と交歓座談会の準備をすることになつた。